

総合整備

セメント他複数ルート確保

処理残さもさらに選別へ

混廃中の廃プラリサイクル

総合整備（本社・東京都杉並区、松島修社長、☎03・5347・2910）は、各種工場や工事現場から排出される混合廃棄物、分別廃棄物から選別し

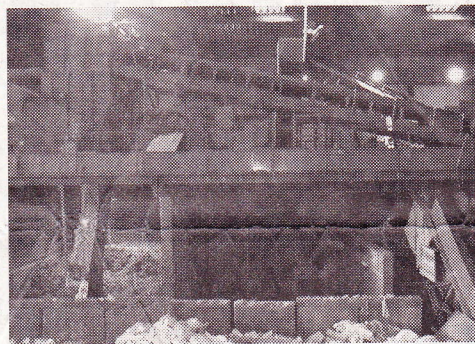
た廃プラスチックについて、同社瑞穂工場（東京都瑞穂町）で粗選別・破碎後、大手セメント会社やマテリアルリサイクル会社、サーマルリサイクル会社など

複数のリサイクルルートを構築した。選別後の資源化不適物として安定型最終処分場に委託しているものについても、近く新たに振動篩いと風力選別機を導入し、さらに廃プラな

どのリサイクル率向上を図る。同社は1986年5



瑞穂工場前景



廃プラ破碎ライン

月の設立。産業廃棄物・特別管理産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の中間処理を手掛ける。施設としては産業廃棄物中間処理を行う瑞穂工場・あきる野工場、収集運搬に係る積替え保管施設（瑞穂町）を持つ。積替え保管施設は許可上の保管量が1829

・9立方メートルあり、自社で中間処理するものとリサイクル物として他社に委託するものに分けて対応している。受け入れられている産業廃棄物は現在、各種工場系や建設系の混合廃棄物、百貨店などあらゆる業態からの廃棄物で、特管物を除く産業廃棄物に対応できる施

設である。一般廃棄物収集運搬などについては、東京23区や多摩地区などからの仕事を行っている。瑞穂工場や瑞穂保管積替え施設に搬入された産業廃棄物はまず、建屋内のヤードに展開し、選別として人手で、廃プラや木くず、金属くずに細かく分ける工程を重視している。従来は、コンベアによる手選別ラインで選別していたが、ヤードで展開して選別した方が効率が良いため、人手選別重視にシフトした。廃プラはロットや汚れ具合により、マテリアルリサイクルにまわし、塩ビ管も分けてマテリアルリサイクルに

まわす。汚れや付着物が付いた廃プラは塩ビ系を除いた後、一次破碎・二次破碎にかけ、50ミリアンターに加工し、金属など異物除去装置を通して貯留したものを燃料として出荷する。かつては、東京都の中央防波堤外側処分場にも搬入していたが、リサイクル重視に大きく方向性を切り替えた。

今年6月には東京都と廃プラスチック類の埋立ゼロに関する協定を締結。埋立処分している処理残さについて、もさらに選別を徹底するとともに、新たな搬入先の確保なども行うとしている。